

2022 年全日本選抜柔道体重別選手権大会



令和4年4月2日・3日の2日間、福岡県福岡国際センターにおいて2022年全日本選抜柔道体重別選手権大会が行われた。今大会は2022年世界柔道選手権代表の最終選考会であり、極めて重要な大会である。2日(土)に女子の全階級、3日(日)に男子の全階級が実施され、自衛隊体育学校からは、東京オリンピック金メダリストの濱田尚里1等陸尉以下男子3名・女子4名の選手が出場し、濱田1尉が優勝、今年度新規採用された坪根菜々子2等陸曹が第2位の成績を取めた。

試合一本勝ち

濱田1尉は、梅津志悠選手(三井住友)との1回戦をゴールデンスコア(延長戦)にもつれ込む熱戦の末、縦四方固による一本勝ちで危なげなく勝ち進んだ。迎えた準決勝の相手は泉真生選手(コマツ)。試合開始1分22秒で大内刈による技ありを奪われた濱田1尉だったが、焦らず冷静に試合を選び試合時間残り55秒で横四方固により一本勝ちを取め、決勝に駒を進めた。迎えた決勝は、昨年の本大会優勝者であり、2021グランドスラム・パリ銀メダリストの高山莉加選手(三井住友)との一戦。序盤から激しい攻防戦を繰り広げた見応えのある試合は、試合時間残り36秒に濱田選手の横四方固による一本勝ちで幕を下ろした。世界から「蟻地獄」と恐れられる寝技を駆使し、全試合一本勝ちで自身3度目となる優勝を飾った。これにより濱田1尉は2022年世界柔道選手権大会の代表切符を手に入れた。

濱田1尉は、試合後「3戦ともなかなか思い通りにはいかなかったが、結果として優勝することができて良かった。今回は久しぶりの有観客で、たくさんの方が応援に来てくださったことも嬉しかったです。」と今大会を振り返り「世界選手権に向けてまたしっかり準備していきたいと思う。」と決意を新たにされた。

女子52kg級に出場した坪根2曹は初戦で中内柚里選手(JR東日本)との11分41秒の大激戦を制し、準決勝に進んだ。準決勝は東京オリンピック金メダリストの阿部詩選手(日本体育大学)と対戦予定であったが、相手の棄権により不戦勝で決勝進出を決めた。迎えた決勝の相手は白石響選手(環太平洋大学)。なかなか自分の技を繰り出せず指導が重なり、試合時間残り27秒で反則負けを喫し準優勝となった。社会人となり初めての大会で好成績を取めた坪根2曹の今後に期待が高まる。

試合後、坪根2曹は「相手に一方的に攻められ自分の柔道ができなかった。勝つためにもっと研究し、自分の引き出しを増やしていきたい。これからは寝技をもっと強化したい。応援していただき、ありがとうございました。」と語った。



第2位入賞を果たした坪根2曹(右)

ゴールデンスコア：時間無制限の延長戦。規定の試合時間は4分で、この間に勝負が決しない場合は延長戦となる。

指導：軽微な禁止行為に対してとられる措置(例：試合に対し消極的な態度をとることなど)。

反則負け：指導を3回受けた選手は反則負けとなる。(重大な違反行為があった場合はその時点で反則負けとなる。)

